の事也、奥羽にてわらしといひ、又ぼこといふ、わらしは童男也、和名、童わらは又倀子わらは童男女と有、今わらんべともいふ、通稱也、長崎にてさまといふ、同所にてごと云は少女の事也、奥南部にて末子をよてことといふ、武藏下總にてごといふ、

案に奥羽にてぼことといふ詞は、古代の遺語なるべし、東武にてもぼこと云、二度をぼこなど云詞有、是も小兒をぼことといふ意也、又わこといふ詞有、上古わけといひし詞、轉じてわこといふ、古語拾遺、男兒をワコとよみたり、俗に若子の字を用る、もと是弱の字を用ゆべき事なれど、其字又讀てよはしといふを嫌ひて、若の字を借用ひし也といへり、萬葉、かつしかのまゝのてこなと詠せしは、かの邊にてすへの子をてごといひぬれば、てごの女といへる事なるにや、未詳、

〔倭名類聚抄二男女〕小女　日本紀云、小女和名止米乎　童女同上

〔箋注倭名類聚抄一男女〕少女見神代紀上及崇神十年、履仲卽位前紀、本居氏曰、萬葉集乎登米用處女字、或用未通女、似謂未嫁之少女、然倭建命御歌謂美夜受比賣爲乎登賣、輕太子謂輕太郎女爲袁登賣、皆是嫁後之言、非處女也、愚按、乎度米、對乎度古之稱、謂弱少婦人、轉謂幼稚之女、亦爲乎度米、童女見神代紀上、崇神紀訓和良波女、

〔書言字考節用集四人倫〕少女神代卷　童女同上　未通女萬葉　處女同上　乙女同　嫐孀　幼婦同上

〔古事記傳九〕童女は袁登賣と訓べし、○中略　書紀に少女、幼女、幼婦、萬葉六に、漁童女など見え、和名抄に、小女和名乎止米、童女同上ともあれば、童なるをも袁登賣と云なり、

〔古事記中應神〕故茲神之女名伊豆志袁登賣神坐也、故八十神雖欲得是伊豆志袁登賣、皆不得婚、於是有二神、兄號秋山之下冰壯夫、弟名春山之霞壯夫、故其兄謂其弟、吾雖乞伊豆志袁登賣、不得婚、汝得此孃子乎、答曰易得也、爾其兄曰、若汝有得此孃子者、避上下衣服、量身高而釀甕酒、亦山河之物悉備設、爲宇禮豆玖云爾、自宇至玖以音下效此、爾其弟、如兄言、具白其母、卽其母取布遲葛而、布遲二字以音一宿之門、織縫